

研究課題

# 個に応じた学習支援活動を通して、意欲の向上と基礎・基本の確実な定着を図る

副題

～すべての普通教室における様々なICT機器の効果的な活用を通して～

学校名	坂出市立府中小学校
所在地	〒762-0024 香川県坂出市府中町1193-3
学級数	11
児童・生徒数	256名
職員数/会員数	22名
学校長	近藤 敏弘
研究代表者	藤川 直人
ホームページ アドレス	<a href="http://www.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=3710001">http://www.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=3710001</a>



特別研究指定校

## 1. はじめに

本校は、坂出市の東南に位置し、かつて讃岐国の国府が置かれていたところであり、政治・文化の中心として栄え、歴史と伝統に育まれた町にある。周りは山に囲まれ、そして学校のすぐ横には綾川が流れる自然豊かなところでもある。

本校の教育目標は「自ら学び、心豊かにたくましく生きる子どもを育てる」である。この目標を達成するために地域の教育力を大事にしながら家庭と連携して、子どもたちが夢の実現に向け頑張る力をつけてほしいという願いを込めて研究に取り組んできた。

## 2. 研究の目的

本校は、コンピュータ室の整備は行われているものの、校内 LAN の整備、校務用 PC や普通教室への PC、校務用 PC の整備は十分ではない。

また、本校において ICT を用いて授業を実践した教員がほとんどおらず、ICT がよいと言われてもなかなか普通の授業に取り入れ活用することが難しかった。「そもそもないものは使えない、あっても準備に時間のかかる ICT より、チョークで勝負！」という考えが多かった。

だが、今、教師に求められているのは、ICT を効果的に活用して学習指導を行う能力であり、そのことで授業が改善し、子どもたちの学力が向上することをめざすことである。そこで、学力向上を支える大事な柱として、授業における ICT の活用を積極的に推進していきたいと考えた。

ICT の効果的な活用が子どもたちの興味・関心を引き出し、

積極的に授業に参加させるのに大きな効果をもたらすと考えている。そしてそれらを「学習の意欲の向上」「基礎・基本の確実な定着」へとつなげていきたい。

## 3. 研究の方法

本校では、テーマの実現に向けて次のことを実践した。

1. ICT機器活用のための環境整備
2. ICTを効果的に活用するための研修の実施
3. ICT活用マニュアルの作成
4. 研究授業で実践
5. 教師・児童の意識調査を通して成果を評価

## 4. 研究の内容と経過

### (1) ICT機器を揃える

ICT 活用を推進していくためには、使いやすい機器が必要となってくる。そこで、まずは教科書などを大きく映すことができるプロジェクタと実物投影機を一番に整備していくことを考えた。

昨年度当初、本校には、十分に使用可能なプロジェクタが1台、実物投影機は1台もない状況であった。そこで、助成金で夏休みまでにプロジェクタを3台、実物投影機も3台整備してその効果を実感してもらった。そして、現在までにPTA への協力もいただきプロジェクタ8台、実物投影機を7台を整備した。各クラスまでとはいかないが、各学年が「普通の教室」で「普通の授業中」に「普通に使える」ようになってきた。

そして今年度に入り、さらに PTA への協力を頂き、すべての普通クラスにプロジェクタ、実物投影機を整備することができた。

しかし、ICT が苦手な人にとっての大きな問題が、使うようにするために機器を設置して接続することである。そこで、プロジェクタと実物投影機を常に接続状態にして、しかも移動が簡単にできるようにワゴンに乗せることにした。学年によってはビデオデッキも設置し、より利便性の高い ICT ワゴンにした。



〈整備した ICT ワゴン〉

また、デジタルカメラも整備を進め、各クラスに 1 台は整備した。また、フリーに使えるカメラも 8 台準備し、児童の学習活動に十分活用できるように、写真や動画機能を十分に活用できる環境を整えた。

## (2) ICTの活用研修を行う

ICT 機器が揃っても、それをどう活用したらよいか、効果的な使い方を知らなければ「宝の持ち腐れ」になってしまう。かといって最初から難しい ICT の活用ばかりを求めようとすると、逆に敬遠されがちになってしまう。そこで、簡単などころから徐々に始められるように、まずは ICT の活用のよさを全職員に感じてもらうと校内研修を始めた。

### ① 外部講師を招へいした研修

夏休みに県教育センターの指導主事の先生を講師に招いて「授業における ICT の活用」の研修を行った。そこで、教員の指示の徹底や教材の拡大提示により分かる授業になる、効率化により学び合いや支援のための時間が確保できる等の活用の効果や目的やねらいの明確化を図ることと黒板とのすみわけ等の注意点について教えていただいた。

### ② メディア教育担当を中心として研修

校内のメディア教育担当教員を中心とした、コンピュータ活用などの研修も実施した。夏休みや現職教育の時間の最初にミニ研修を行い、事務処理に必要な技能やインターネット活用、授業で使えるソフトなどについて研修を行った。

### ③ 一人一人が作った活用マニュアルをもとに研修

全職員が実践の中から、どのように ICT を活用したら効果的だったか、活用した場面をマニュアルにまとめて、夏休みの研修などで研修発表を行いお互いに情報交換があった。

### ④ 現教だよりを使ったミニ研修

現教主任が発行する現教だよりに ICT 活用の実践例などを掲載し、普段の授業での活用のヒントとした。

## (3) ICT活用マニュアルの作成

### ① ICT機器操作マニュアルを作る

ICT 機器を授業に十分活用するために、ICT 機器の操作が苦勞なく行えることが必要である。そこで、現職教育のペアアップ部会を中心に、ICT 機器のスキル向上のために、

ICT 活用機器マニュアルを作成した。

「大判プリンターの印刷方法」「デジカメ画像のパソコンへの取り込み方法」などをラミネートして機器のそばに備え付けた。

### ② ICT活用マニュアルの作成

各自の実践の中で記録に残していこうと、ICT 活用マニュアルを作成した。「教科、活用場面、使用機器、ねらい、学習活動、成果と子どもの反応、学年と単元名」を一つのシートにまとめ、他の教師も参考にできるようにまとめた。前述のように、夏休みや校内の現職教育の時間にそれぞれの実践発表を行い、効果的な活動のヒントにしていき、日々の実践の中で、効果的な活用ができるよう校内に広げていけるようにした。

〈ICT 活用マニュアル〉

**授業でのICT機器活用マニュアル**

**図工** **作品例や自己評価カードを紹介する場面**

**ねらい**  
自己評価カードをみんなに見えるように紹介したり、作品を映し出したりして、次だちのよいところを認め合いながら評価する。

**使用したICT機器**  
・お絵描機  
・プロジェクター  
・デジタルカメラ

**学習活動**

- デジタルカメラで作品を撮り、記録として残す。
- デジタルカメラで撮った次だちの作品や作品例を映し出す。
- 映し出した作品を見ながら、完成した作品と比べて、よくなったところを評価する。
- 自己評価カードを紹介し、よかったところを認め合う。

**成果と子どもの反応**

- 作品例や次だちの作品を紹介
  - 記録として残している前までの作品の写真を映し出し、それを見ながら完成作品と比較することができ、よいところをみんなで見つけあうことができた。
  - デジタルカメラで記録をとり、自分の作品についての振り返りができた。
- 自己評価カードの紹介
  - 自己評価カードを大きく映し出し、書き方をみんなで見ながらみることで、
  - 次だちのワークシートを大きく映し出すことで、みんなの視線が集中することができ、みんなが考えを限ったり意見を出し合ったりすることができた。

2年生「ざいりようのへんしん」より 長瀬 孝 大野 佳美

## (4) 研究授業で実践をする

ICT を活用した研究授業を行い、授業討議を重ねながら ICT のより効果的な活用について研究を深めてきた。

授業の中で「いつ」「どのような学び合いを」させるか視点をもちて効果的に活用することを考えた。ICT 活用の目的

② ICT活用

ICT 活用の目的	○ : A 課題の提示	○ : B 比較	○ : C モデルの提示
	○ : D 教員の説明資料	○ : E 体験の代行	○ : F 体験の想起
	○ : G 繰り返しによる定着	○ : H 動機付け	○ : I 振り返り
	○ : J 失敗例の提示	○ : K 学習者の説明資料	○ : L その他

学ぶ意欲と確かな学力を育む支援の一つとして、ICT活用の効果は大きい。本時でも大きく三つの場面で活用していく。

一つ目は、導入時である。学習課題に関する写真を提示し、意欲や動機付けを行う。

二つ目は、動画の活用である。本単元で学習する人のからだの内面は、自分たちで実験

〈学習指導案〉

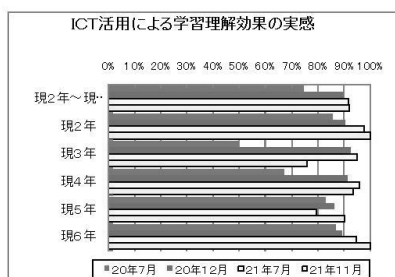
を学習指導案に明確にすることで、資料の活用や子どもの学びの姿をイメージすることができる。職員が共通理解して授業展開を行った。

## 5. 教師・児童の意識調査を通して成果を評価

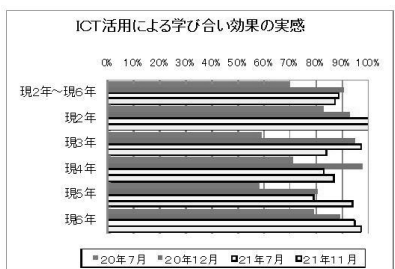
### (1) 児童の意識調査

ICT 活用効果を児童の意識調査を通して評価した。

「先生が ICT を使って授業をするのが好きだ。」という児童は9割以上を占めた。それは、ICT に対する興味本位からだけの理由ではない。右のグラフは、「コンピュータやプロジェクトを使うと、使わないときより、学習がよく分かりますか。」の質問に対して、初回は、比較的低い値を示しているが、その後の3回は、現2年生から現6年生の結果からも分かるように9割近くが「わかる。」と応えている。ICT の活用は学習理解に効果があると、児童は認識していることが分かる。



右のグラフは、「コンピュータやプロジェクトを使うと、自分の考えがうまく伝えられたり、友だちの考えがよく分かりますか。」の質問に対し、8割以上の児童が、「うまく伝えられたり、分かったりする。」と答えている。ICT を学び合いの場面で活用することは、その効果が有効に働くことと認識していることが分かる。



以上のことから、ICT の活用は、児童の学習活動に効果的と考えているが、ここでのキーポイントは、「いつ、どこで、だれが、何のために、どのように使うか」を考えて活用しなければならないということである。

そこで、「どんなときに ICT 機器を活用したら学習がよく分かるか。」という質問をすると、下記のような回答があった。

- |    |              |            |              |
|----|--------------|------------|--------------|
| 国語 | ○文章を示すとき     | ○漢字の学習     | ○ノートを映して説明   |
| 社会 | ○地図を見るとき     | ○ビデオを見るとき  | ○資料を見るとき     |
| 算数 | ○教科書を大きくして説明 | ○ノートを使って説明 | ○計算の仕方・答え合わせ |
| 理科 | ○植物の画像       | ○用具の使い方    | ○小さい物大きく     |
|    | ○実験の説明       |            |              |

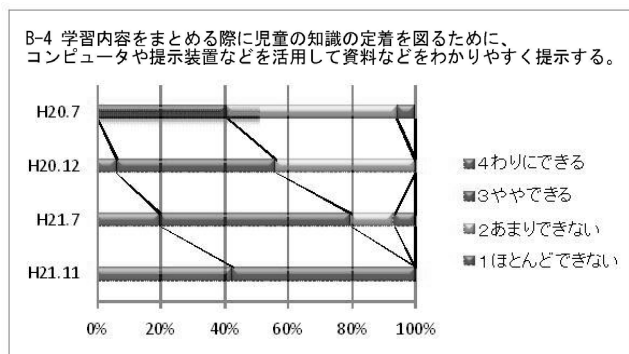
このような調査をふまえ、教師が試してみるだけでなく、児童が自分の考えを発表する手段としても効果的に使うことを目的としての実践にもどんどん取り組んでいった。

### (2) 教師の意識調査

校内独自のアンケートと文部科学省から出されている「教員の ICT 活用指導力チェックリスト」を使って教師の意識調査を通して成果を評価をした。

多くの項目で、最初に比べて大きく割合が伸びてきている。今年度4月に教員の転出や転入があったので単純な比較はできないが、学校全体が ICT に対して抵抗なく、活用が進められていることがわかる。

特に、『A 教材研究・指導の準備・評価などに ICT を活用する能力』では A1、A3 の2項目、『B 授業中に ICT を活用して指導する能力』では、4項目すべてが「わりにできる」「ややできる」の割合を合わせると100%、または100%に近くできている。



## 6. 研究の成果と今後の課題

研究が進むにつれ、ICT 活用が浸透し、普段の授業のなかでどんどん取り入れられ、あらゆる場面で手軽に活用できる教員が増加している。また、児童の学び合いのツールとしても活用が進んできていることも実証された。それが、児童の学習意欲へとつながってきている。

その成果として、県下で行なわれている学習状況調査、全国学力テストでも向上がみられた。特に6年生は前年に比べ、ほとんどの項目で平均よりマイナスだったのが、ほとんどの項目で上回るまでになり学力が向上してことが実証された。

ただ、教師の『C 児童の ICT 活用を指導する能力』では、伸びてはきているものの「わりにできる」「ややできる」を合わせても60%近くまでしか伸びていない現状もある。これからさらに、児童の ICT 活用を指導できる力を教師につけていき、ICT の活用が教師にとっても児童にとっても学力を向上するための手軽でそしてごく自然なアイテムとなるようにしていきたい。

### 参考文献

「神奈川県総合教育センター授業における ICT ガイド」